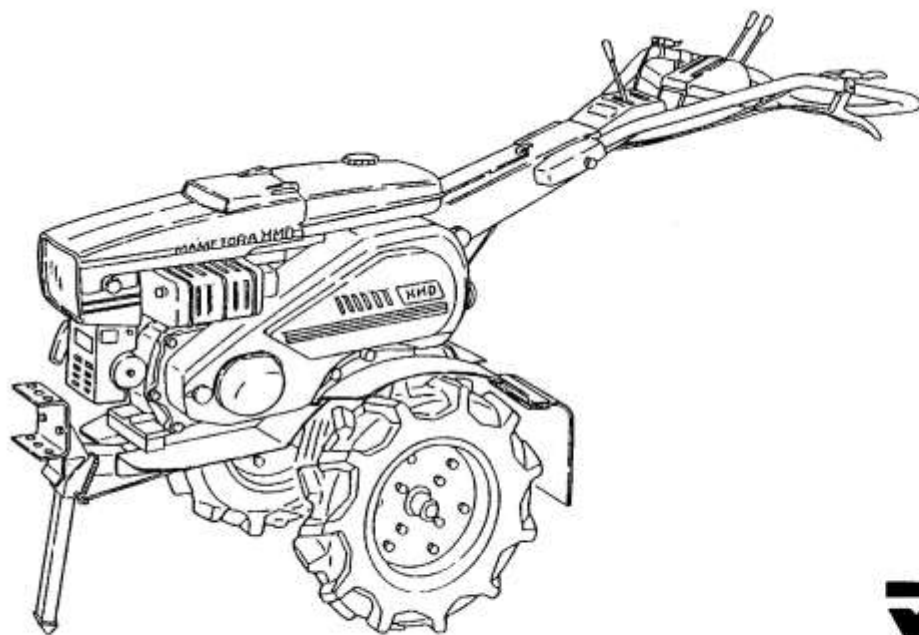


# マメトラテトラ

**HMD**

〔セル付〕★取扱説明書★



**マメトラ**

**マメトラ農機株式会社**

## — もくじHMD(セル付) —

はじめに.....	1
1 仕様.....	2
2 各部の名称.....	3
3 運転前の注意.....	4
4 潤滑油.....	5
5 本機各部の構造と調整.....	8
6 運転の要領.....	16
7 バッテリーの点検・整備のしかた.....	21
8 バッテリーの取扱いかた.....	23
9 ロータリーの取扱いかた.....	24
10 作業後の手入と保存方法.....	27
11 安全作業のための心得.....	28

## はじめに

---

このたびは、マメトラティラー「HMD(セル付)型」をお買いあげいただきまして誠にありがとうございました。

本機は、農家の省力機械の製作販売に多年の経験を持つ弊社が、高度の技術を結集してお手許に送りましたティラーです。

お買いあげになりました本機の性能、耐久性、そして操作の簡単さは、必ずやご満足いただけるものと確信致しております。

この説明書は、あなたの「HMD(セル付)」をいつも故障なく、いつでも最良の状態、本機の性能を発揮させ、ご活用していただくために、簡単な注意点をやさしく説明してありますので、本機のご使用前には、よくご熟読の上、いつも正しい取り扱いをして、いただくようお願い致します。

# 1 仕 様

## (1)本機仕様

項 目		仕 様	
型 式	マメトラ HMD	マメトラHMD(セル付)	
機 体 寸 法	全 長	1810mm	
	全 巾	760mm	
	全 高	1065mm	
	全 重 量	141kg	143kg
変 速 段 数	前進8段・後進4段		
主 ク ラ ッ チ	ベルトテンション式		
動 力 伝 達 方 式	Vベルト・ギヤ		
サ イ ド ク ラ ッ チ	ドッククラッチ		
標 準 タ イ ヤ	4.50-10		
轆 間 距 離	478mm~746mm(中心距離)		
車 軸 径	φ34.5		
ホ イ ル チ ュ ー ブ 径	φ40		
最 大 ロ ー タ 径	φ450		
P T O 軸 径	φ22.5インボリユートスプライン(16山)		
P T O 軸 回 転 数	660r.p.m・1347r.p.m		
点 灯 装 置	6~8V/15W	12V/25W	

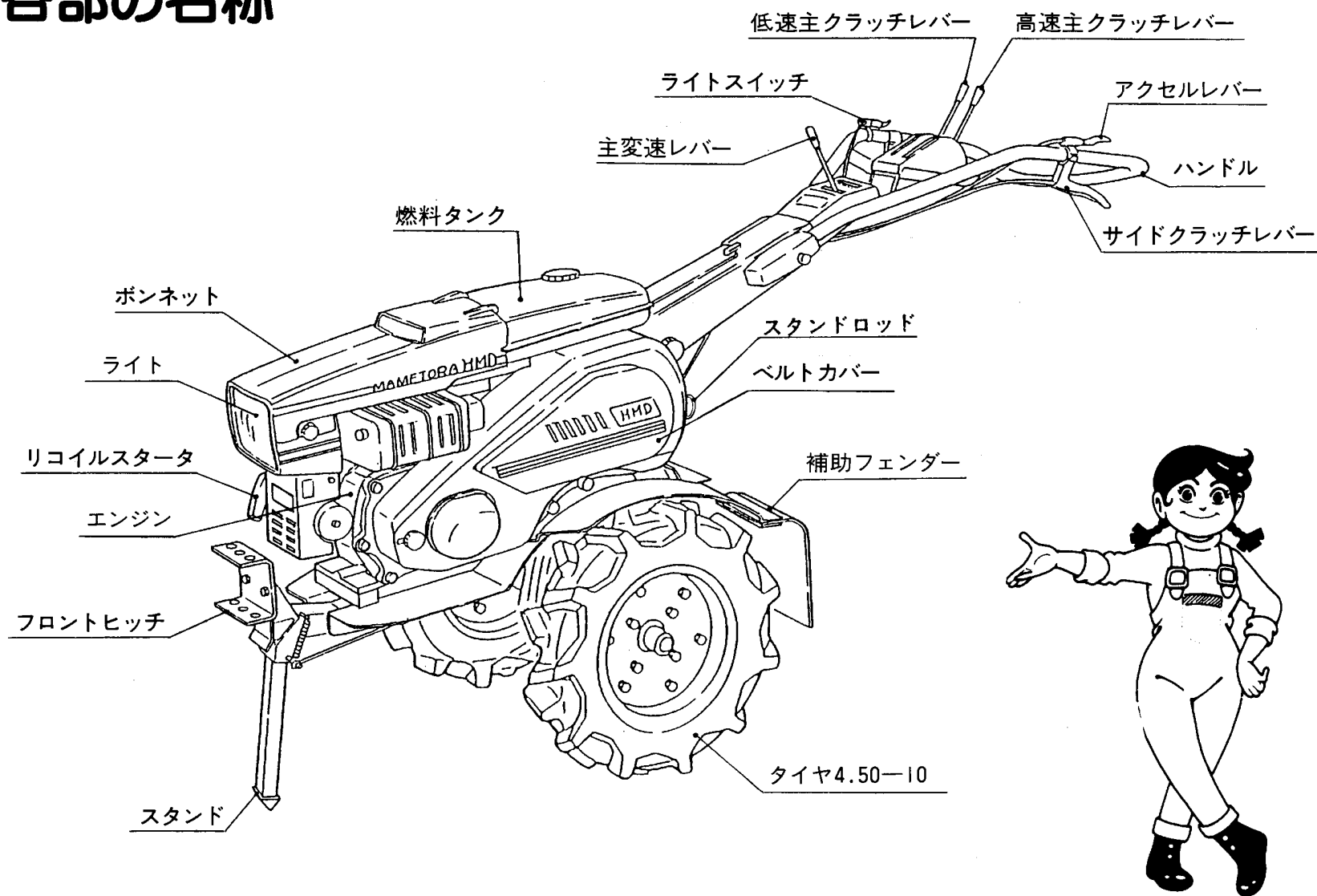
## (2)ロータリ仕様

型 式 名	25RA		
重 量	58kg		
耕 う ん 幅	42cm~60cm		
耕 う ん 深	13cm		
耕うん爪回転数	低速212r.p.m・高速265r.p.m		

## (3)エンジン仕様

名 称	空冷4サイクルガソリンエンジン		
型 式	G710L-	G710L-E-132	
最 大 出 力	7.0ps/2000r.p.m		
排 気 量	267cc		
燃 料 タ ン ク 容 量	5.6ℓ		
点 火 プ ラ グ	NGK B-4		
エ ア ク リ ー ナ	オイルバス式		
潤 滑 油 量	0.8ℓ		
最 大 ト ル ク	2.8kgm/1400r.p.m		
始 動 方 式	リコイルスタータ	セルスタータ(リコイル兼用)	
バ ッ テ リ ー 型 名	—	12N5.5A-3B	
充 電 能 力	—	12V-2A	

## 2 各部の名称

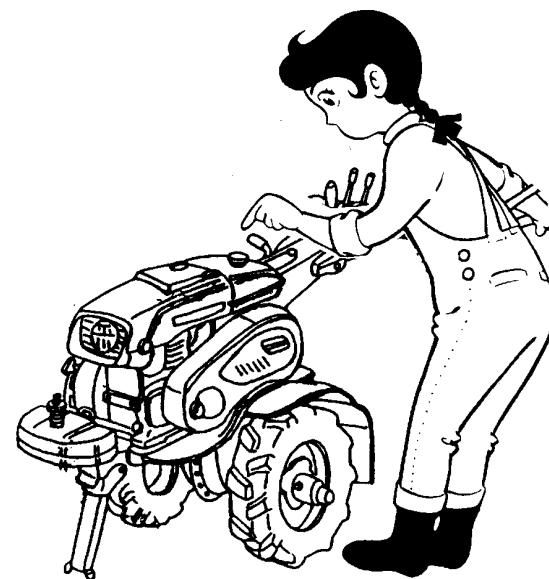


### 3 運転前の注意

ティラーの性能を快適に保つためには日頃の点検、整備、調整が、機械の寿命に大きく影響します。

次の点にご注意ください。

1. 各部のボルト、ナット類のゆるみ、脱落の有無を点検してください。なお10～20時間使用後に各部の増し締めを行なってください。
2. 各注油個所に指定のオイルが適正量入っているか点検してください。輸送中の油洩れ防止のため油が入っていない場合があります。
3. 主変速レバー、主クラッチレバー、アクセルレバー等が正しく作動するかを確認してから運転を始めてください。
4. 主変速レバー及び副変速レバーは必ず主クラッチレバーを切ってから操作してください。主変速・副変速レバーが入り難い時はレバーを無理に操作しないで、主クラッチレバーを一度入れて確実に切ってから行ないますと容易に入ります。
5. 新らしい機械は最初2～3時間は無理な運転を避けてナラシ運転をしてください。
6. 運転時に異常音または異常な発熱はないか点検してください。
7. セル付本機の場合は、バッテリー液は入っておりませんので付属のバッテリー液を入れて使用してください。詳細は23ページを参照してください。



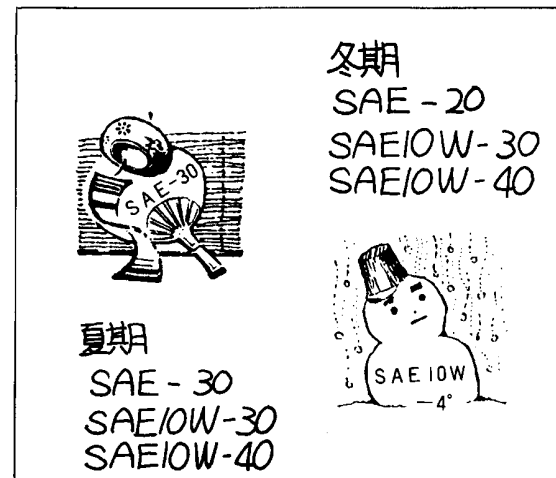
# 4 潤滑油

(4-1 図)

## (1) エンジンオイル

エンジンオイルは入っておりません。使用前に必ずエンジンオイルを正規量入れて下さい。使用オイルはSC級 SD級 SE級の良質の新しいオイルを使用して下さい。(4-1 図)

夏期……SAE-30    SAE10W-30    SAE10W-40  
 冬期……SAE-20    SAE10W-30    SAE10W-40



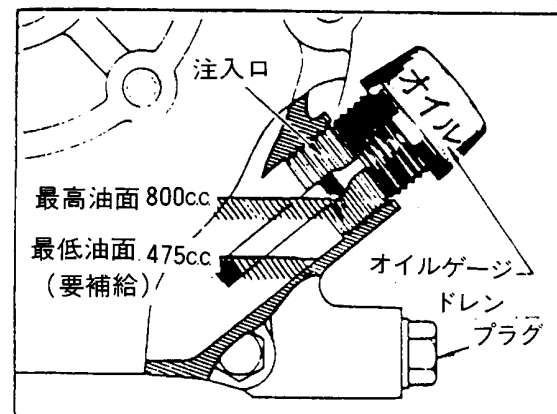
## (2) エンジンオイルの交換のしかた

エンジンクランク室	1 回目交換	2 回目の交換
オイル 交換 時間	20 時間後	50 時間ごと

エンジンオイルが汚れていると各部の摩耗を早めますので早めに新しいオイルと交換して下さい。エンジンが暖まっている間にドレンプラグを外して古いオイルを抜きますと簡単に出来ます。(4-2 図)

規定量 = 800cc

(4-2 図)



### (3) ミッションケースオイル

前スタンドを立て注油プラグをはずしてギヤオイルSAE 90番を約2.6リットル入れてください。シャーシフレームを水平にして、注油口より油面が見える程度が適当です。(4-3図)

#### 〔注意〕

ミッションケースのオイルは最初の10~20時間使用したら一度交換して下さい。最初は初期摩耗がありますので早めに交換して下さい。またその後は年1回か2回交換して下さい。長く使うと老化して油としての用をなくします。

### (4) ミッションケースオイルの交換のしかた

ミッションケース下部にあるドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出します。(4-4図)

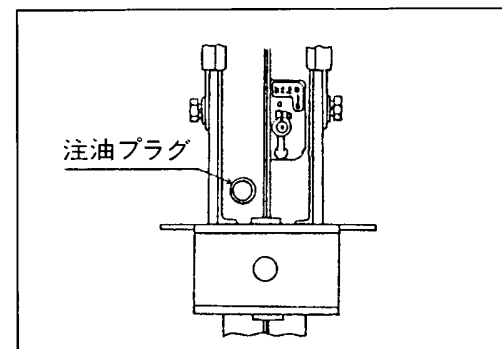
※ミッションが温かいうちに抜くと、容易に抜くことができます。

### (5) エアークリーナの掃除のしかた

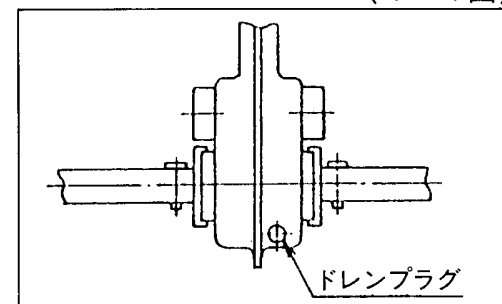
オイルが不足しているときは、オイルレベルまで補充してください。

汚れがひどいときには、オイルパン、エレメント共白灯油で洗浄し、エレメントは点滴しない程度に振り切る。または絞る。(4-5図)

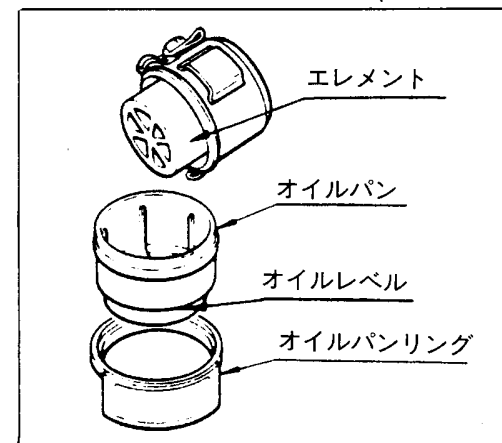
(4-3図)



(4-4図)



(4-5図)



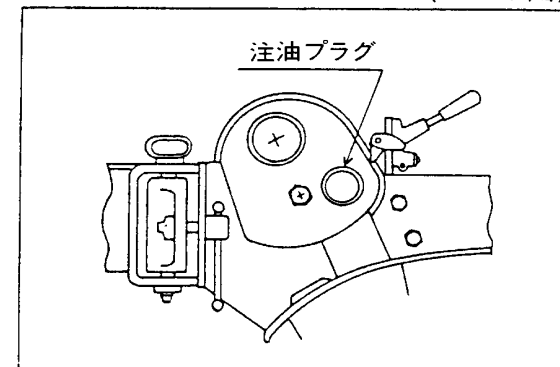


**(6) ローターミッションケース (ロータリー付のみ)**

注油プラグをはずしてギヤオイルSAE 90番を約 1.6リットル入れてください。

(4-6図)

(4-6図)



**(7) オーバードライブプーリ**

トレーラー作業で約 100 時間毎にベルトカバーを外し、グリスニップルより良質のグリスを5~6回注入してください。(4-7図)

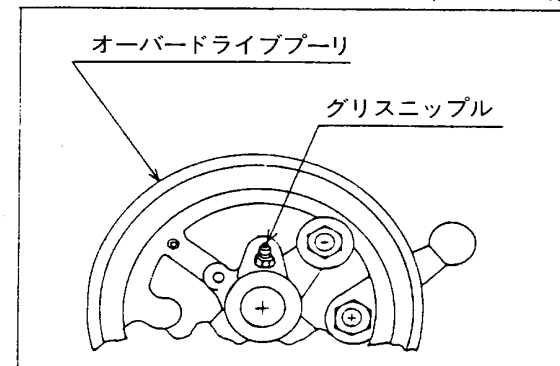
**(8) 各ワイヤーの注油**

サイドクラッチワイヤー、主クラッチワイヤー、アクセルワイヤー等のインナーワイヤーにモーターオイルを適量注油してください。

**(9) その他の摺動部**

その他、テンションプーリーの支点、変速ロッドジョイント部、主クラッチレバー支点等各摺動部にモーターオイルを適量注油してください。

(4-7図)



## 5 本機各部の構造と調整

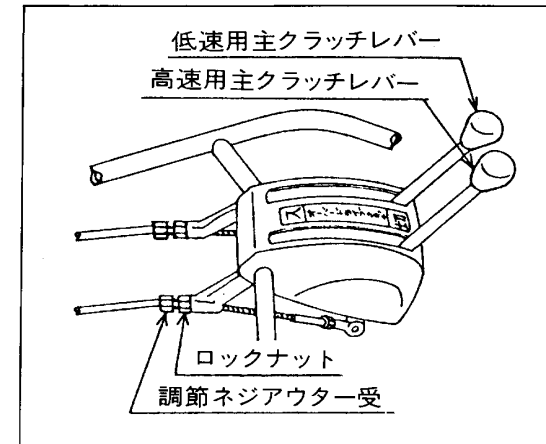
### (1) 主クラッチレバー

#### 1) 操作のしかた

主クラッチレバーはエンジンプーリと主軸プーリ間にかかっているVベルトを、テンションプーリで引張って動力を伝達するもので低速用、高速用の2本のレバーがあり、前方に倒すとクラッチが入り、手前に引くとクラッチが切れます。走行の場合、発進しようとするときは、低速用主クラッチレバーを前方に倒すと静かに走り出します。

低速用主クラッチレバーはそのままにして、さらに高速用主クラッチレバーを前方に倒すとティラーは円滑に速度を増し、この間にベルトの伝動力は次第に高速側プーリに移ります。(5-1図)

(5-1図)



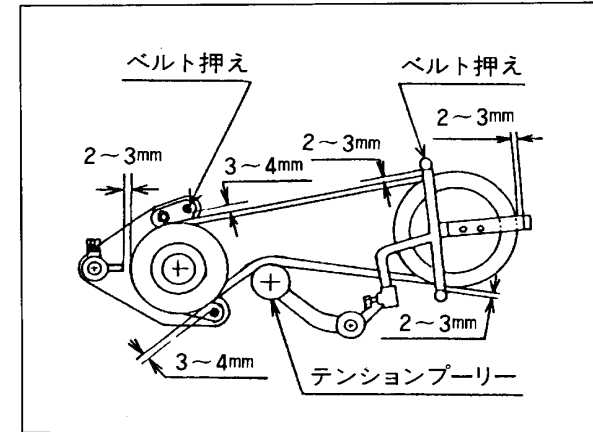
## 2) 調節のしかた

主クラッチはベルトの緊張によって行なわれますので、この調整には特に気をつけてください。

ベルトの張りが弱いとベルトが早く傷み、動力の伝達効率が悪くなります。張りが強いとクラッチが切れず大変危険です。またベルト押え金具とベルトの間隙が適当でないと主クラッチレバーを切ってもベルトがついて回り確実にクラッチが切れません。主クラッチレバーを入れた状態で、ベルトとベルト押えの間隙を2～3mmに調節してください。(5-2図)

特に使用状態が低速側または高速側のみを長期使用し、どちらか一方のベルトの張りが弱くなった場合は、スリップ側のワイヤーを調節します。ロックナットをゆるめ調節ネジアウター受を出してベルトの張り具合を調節します。調節後は確実にロックナットを締付けてください。(5-1図)

(5-2図)



## (2) オーバードライブ (自動増速装置)

当社技術陣の成果による画期的な特許機構で、主軸プーリーはオーバードライブ (自動増速装置) が装着されています。

エンジンに無理を与えず円滑に変速を行なう機構ですが反対に急坂を下る時のようにエンジnbrakeを働かせる場合は、ベルトカバーを外し、切替レバーを⊙の位置にしてください。オーバードライブの働きが止まりエンジnbrakeがききます。

特にロータリー作業の場合、切替レバーの軸とプーリー側の▽印が合った位置でレバーを⊙にしてください。(5-2図)

## (3) 変速機構

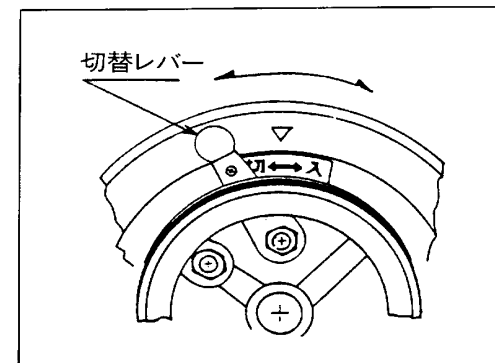
### 1) 主変速

ハンドル中央部の主変速レバーで低速、高速、後進 (前進2段・後進1段) の切換ができます。(5-3図)

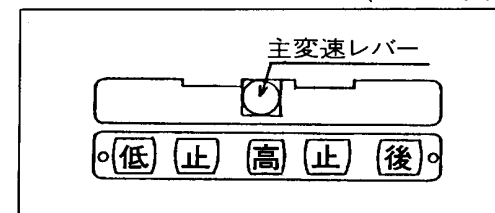
### 2) 副変速

副変速レバーの操作で低速、高速の2段切換ができます。切換の操作は必ず主クラッチレバーを切ってから行なってください。(5-4図)

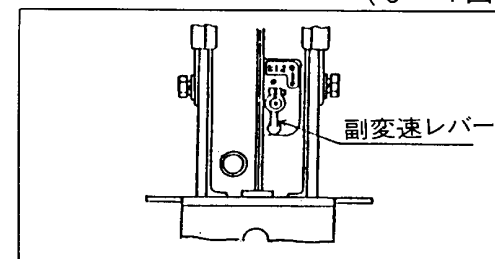
(5-2図)



(5-3図)



(5-4図)



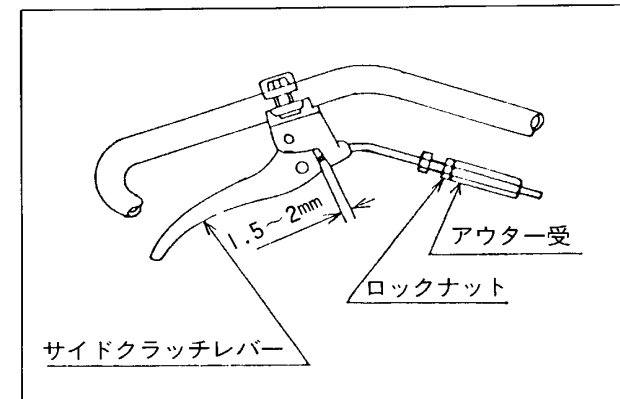
(5-5 図)

#### (4) サイドクラッチ

ハンドル手元、握り部についているものでレバーを握るとサイドクラッチが切れ、放すと入ります。(両方のレバーを握ったまま機体を押して軽く動くこと) サイドクラッチのワイヤーが伸びた場合はロックナットをゆるめアウター受をのばして調節してください。

その際にクラッチレバー取付け金具とレバーのアソビ間隙を  $1.5 \sim 2 \text{ mm}$  程度となるように調節してください。

調節後はロックナットを確実に締付けてください。(5-5 図)

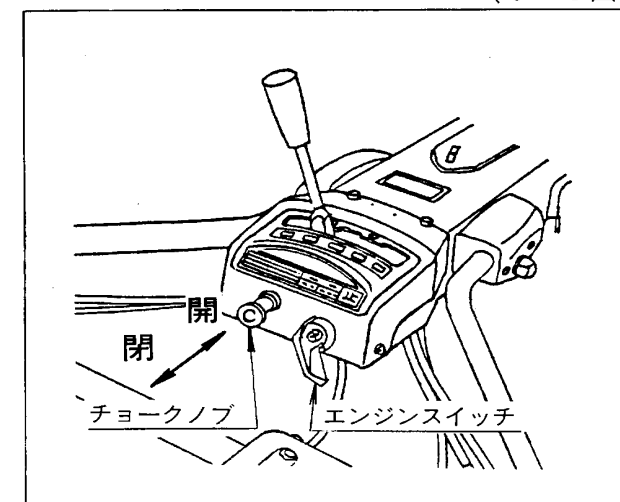


(5-6 図)

#### (5) エンジンスイッチおよびライト

##### 1) 標準型

チェンジボックス後部についています。「始動」位置でエンジンがスタートします。「ライト」位置でライトが点灯します。(6~8V/15W) エンジンの停止はスイッチを「停止」の位置にします。(5-6 図)



## 2) セルモータ型

チェンジボックス後部についています。「運転」位置でスイッチが入り、「始動」位置にしますとエンジンがスタートします。(5-8図)

エンジンの停止はスイッチを「停止」の位置にします。

バッテリーが放電してセル始動ができない場合は充電をして下さい。また、リコイルスタータで始動することができます。この場合はキースイッチを必ず「運転」の位置にしてスタートして下さい。

ライトスイッチはハンドルの右側についています。(5-7図)

「ON」にしますと点灯します。(12V/25W)

### 〔注意〕

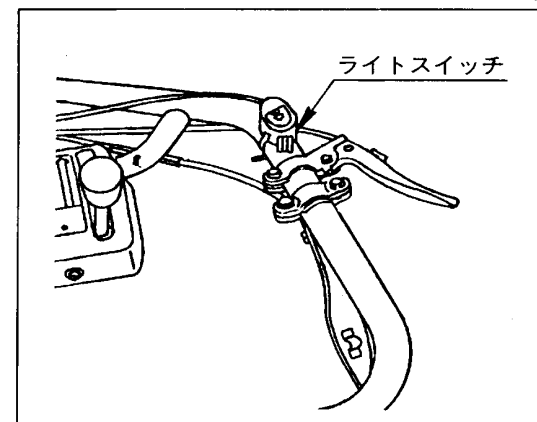
ライトの電源はバッテリーから取出していますのでエンジン停止後は必ず「OFF」位置にして下さい。

### (6) チョークの操作

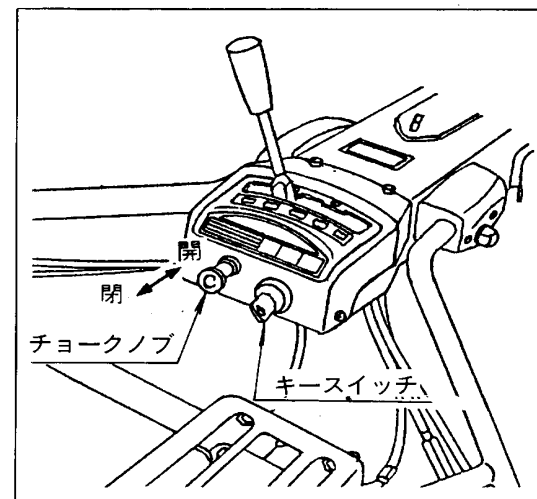
チョークノブを手元に引くと気化器のチョーク弁が閉じ、押し込むと全開になります。

操作は、寒い時は「閉」にして下さい。始動後は徐々に「開」にして下さい。一度暖ったエンジンを始動する場合はチョークノブを「開」又は「半開」にして下さい。(5-8図)

(5-7図)



(5-8図)



### (7) リコイルスタータ

チョークノブを「閉」にしてリコイルスタータを勢いよく3回位引張っても始動しない場合は必ずチョークノブを「開」にしてやりなおして下さい。

もしチョークノブを「閉」のまま何回もリコイルを引張りますと燃料の吸過ぎとなり点火プラグも濡れて始動不良となります。(5-9図)

### (8) アクセルレバー

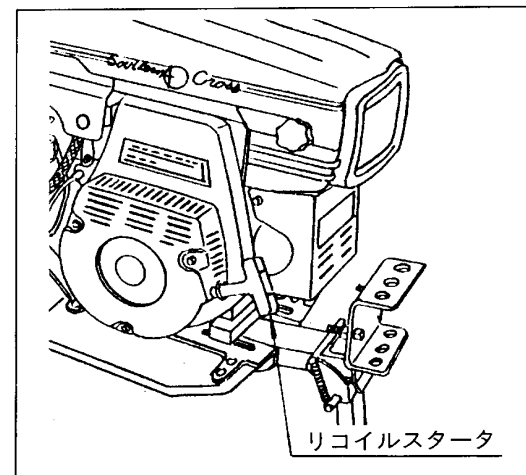
ハンドル左側についているものでレバーを内側に回せばエンジン回転が高くなり、外側に回せばエンジン回転が低くなります。(5-10図)

### (9) ヒューズの点検・交換のしかた

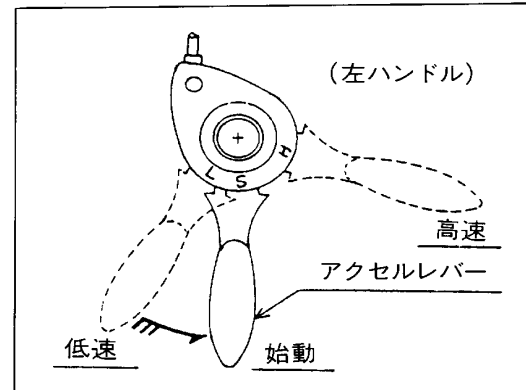
ヒューズは、配線回路(通電している回路)へ過大電流が流れた場合、溶断して電流を遮断します。

※チェンジボックスの下部にヒューズホルダー(白色)がありますので、ヒューズ切れの場合は交換して下さい。(15A)

(5-9図)



(5-10図)



### (10) エンジン前後によるベルトの調節

ベルトが伸びたりまた新しいベルトに取り替えた時に於いて、主クラッチワイヤーだけでは調節できない場合は、(5-11図) エンジン固定ナット4本と、(5-12図) 燃料タンク下部の支えボルトのナット2個及びサイドカバー取付の⊕ビス2個をゆるめて調節してください。調節後は確実に締付けてください。

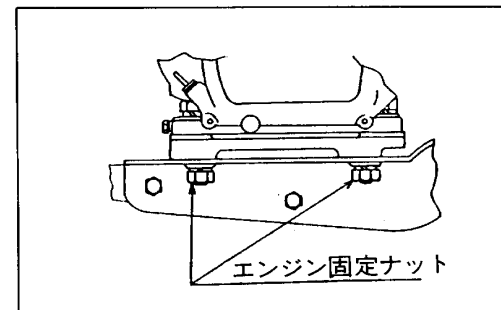
ベルト寸法	低速側	{ LA-48 (オレンジ) 又は SA-48 (レッド) }	2本
	高速側	{ LB-44 (オレンジ) 又は SB-44 (レッド) }	1本

### (11) ハンドル上下調節

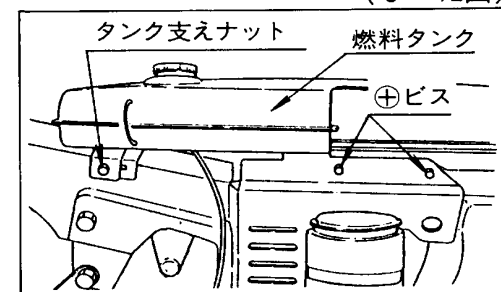
ハンドルはアタッチメントの種類、使う方の身長に合わせて上下調節することができます。

上下調節はループハンドル支点、左右の締付けボルトをゆるめ使用しやすい位置に調節して締付けます。(5-13図)

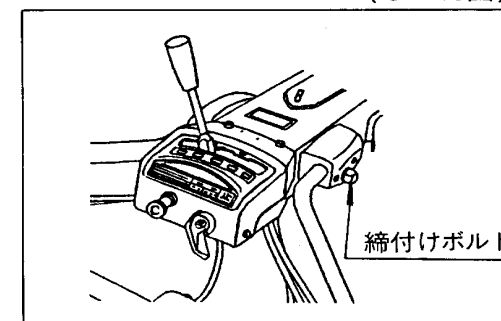
(5-11図)



(5-12図)



(5-13図)





(12) **スタンドロッド**

前方へ押すとスタンドが立ちます。

後方へ引くとスタンドが収納されます。(5-14図)

(13) **ブレーキレバー**

ハンドルの右側についています。

レバーを握ると「作動」位置にロックされます。(5-15図)

(14) **バランスウェイト**

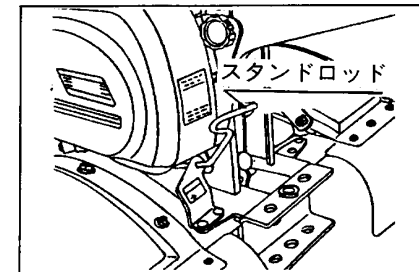
バランスウェイトはアタッチメントの種類や、作業条件により本機のフロントヒッチに取り付け、けん引力を強める働きをします。

キングピンで取り付け、ウェイトセットボルト2本で固定してください。

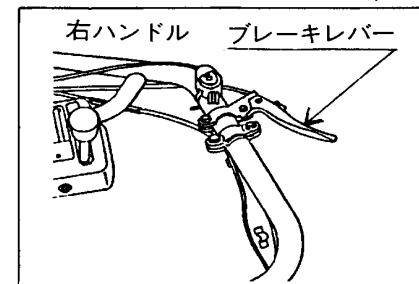
(5-16図)

- ※バランスウェイト大 重量 8 kg
- ※バランスウェイト小 重量 6 kg

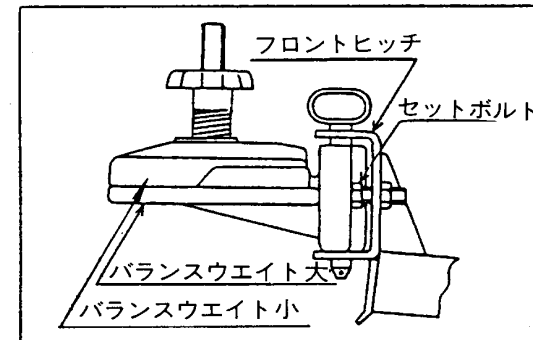
(5-14図)



(5-15図)



(5-16図)



## 6 運転の要領

- 発進する時は、周囲の安全を確かめてから発進してください。
- 坂道、凹凸、カーブの多い道では、スピードを落とし最も安全に通行できる所を選んで通ってください。
- 坂道でサイドクラッチを操作すると、逆方向に旋回することがありますので、なるべくハンドルを振って旋回して下さい。
- やむをえず坂道で駐車する時は、必ずタイヤに歯止めをし、ブレーキを作動して下さい。  
(主変速レバー・副変速レバーは低速位置に入れます。)
- 坂道では、主変速を中立にしたり、クラッチを切ったりして走行しないで下さい。

### (1) セルモータによる始動のしかた (6-1 図)

①主変速レバーを「止」(中立)位置にします。

主クラッチレバーを「停止」(切)位置にします。

### ② (ロータリ付仕様の場合のみ)

ロータリチェンジレバーを「止」(中立)位置にします。

③燃料コックを「ON」(開)位置にします。

④チョークノブを一杯に引張ります。(閉)

※エンジンが暖まっている時は押込む。(開)

⑤アクセルレバーを「S」(始動)位置にします。

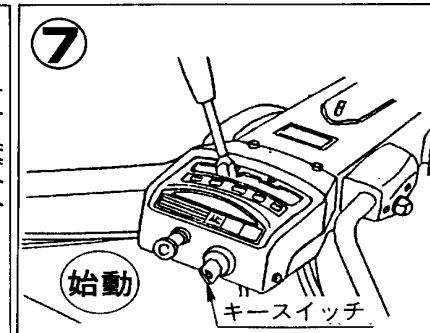
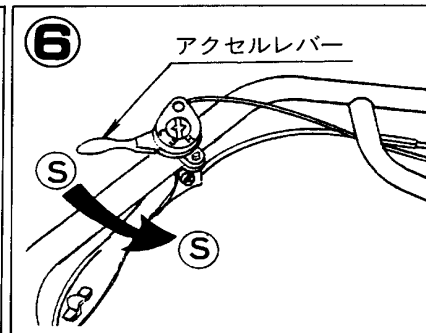
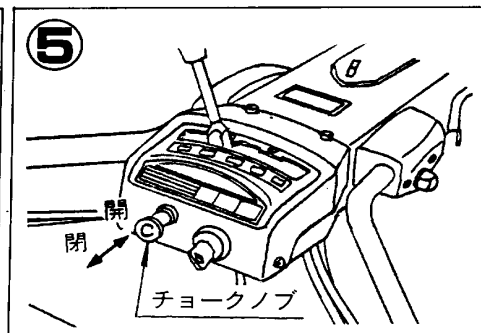
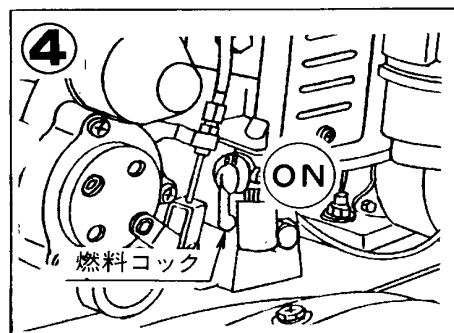
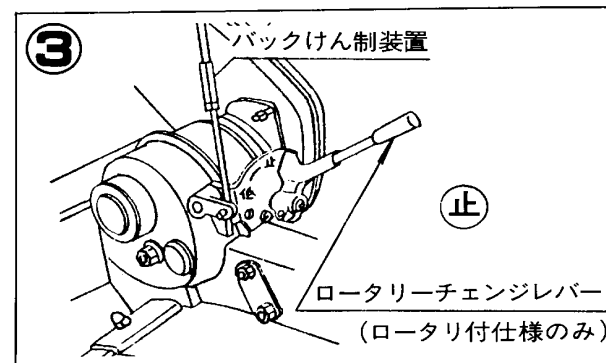
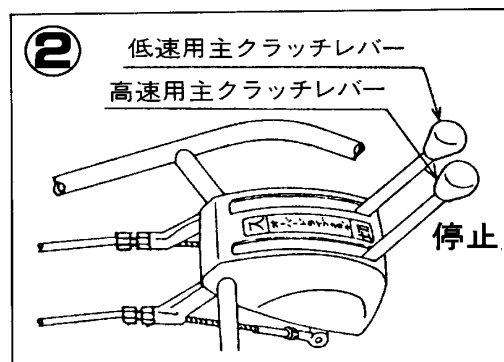
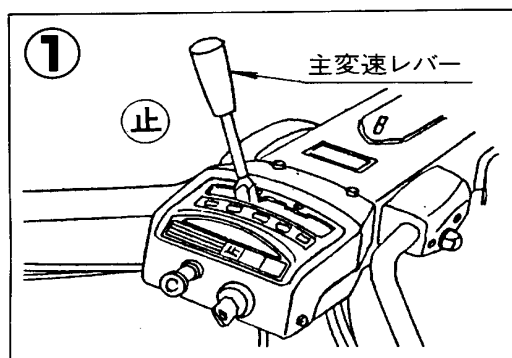
※エンジン始動後、約5分間は負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいて下さい。(暖機運転)

⑥キースイッチを「始動」位置までまわします。

⑦始動したらすぐにキーから手をはなします。

※始動操作は1回10秒以内とし、1回で始動しない時は、バッテリーの回復を待つて（約30秒以上間隔をあけて）再始動操作を行って下さい。

(6-1図)



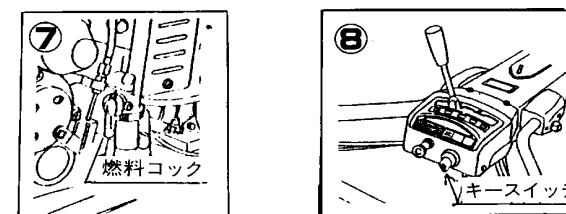
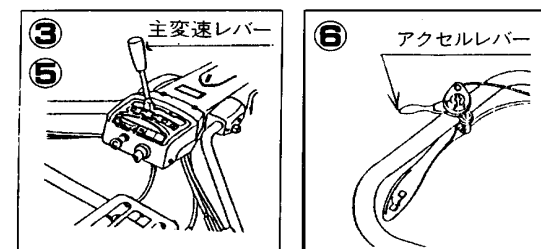
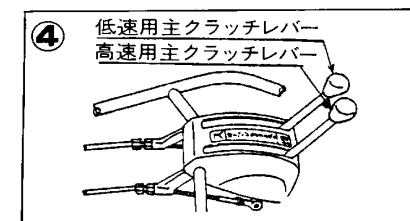
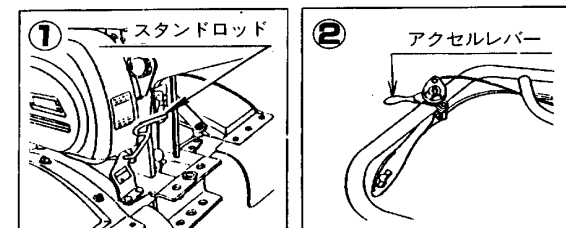
(6-2図)

## (2) 発進のしかた (6-2図)

- ①ハンドルを押えてスタンドを浮かしスタンドロッドを引いてスタンドを倒します。
- ②アクセルレバーで、エンジンの回転を少し上げ主変速レバー・副変速レバーを希望の位置に入れます。
- ③主クラッチレバーを徐々に「入」位置にし、ゆっくり発進します。

## (3) 停止のしかた (6-2図)

- ①主クラッチレバーを「停止」(切)位置にして停止します。
- ②主変速レバーを「止」(中立)位置にします。
- ③アクセルレバーを「L」(低速)位置にします。
- ④燃料コックを「OFF」(閉)位置にします。
- ⑤キースイッチを「停止」位置にします。



(6-3 図)

#### (4) リコイルによる始動のしかた (6-3 図)

セル無の場合、またはバッテリーの容量不足等でセルスタートができない場合は、次の要領で始動してください。

①セルモータによる始動のしかた (16ページ) の①～⑤までの作業をします。

②スイッチを「**運転**」位置 (セル付の場合)、「**始動**」位置 (セル無の場合) にします。

③リコイルスタータのグリップを正しく握りゆつくりと引きます。グリップが重くなったら (圧縮の位置になったら) 再びゆつくりと元に戻します。

④リコイルスタータのグリップを両手で握り勢いよく引張りエンジンが始動したらチョークノブを徐々に戻します「**全開**」。

※セルモータの場合は必ずキースイッチを「**運転**」位置にしてスタートして下さい。

#### (5) 変速のしかた (6-4 図)

作業の途中で変速する場合には、下記の要領で行なって下さい。

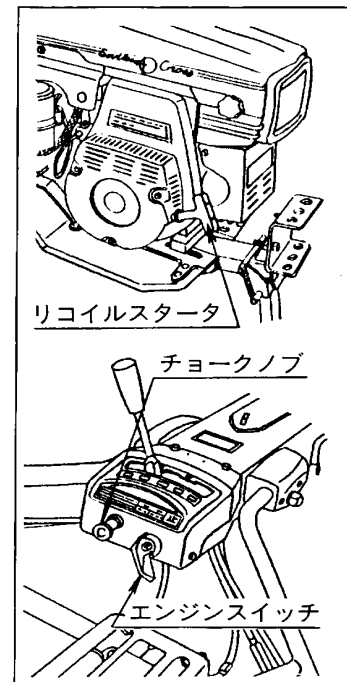
①主クラッチレバーを「**停止**」位置にします。

②希望の変速に入れ替えます。

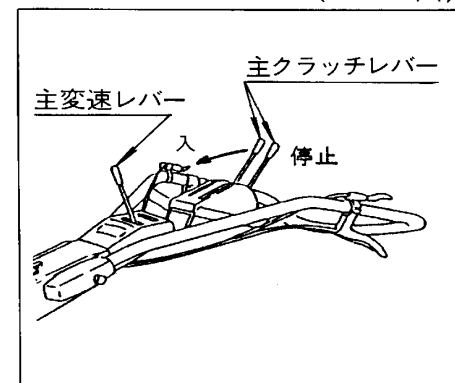
③主クラッチレバーを徐々に「**入**」位置にして再発進します。

#### [注意]

「**前進**」から「**後進**」、「**後進**」から「**前進**」に変速する場合は、必ず機体が完全に停止してから行なってください。



(6-4 図)



(6) 旋回のしかた (6-5 図)

旋回したい方のサイドクラッチレバーを握りますと旋回できます。

〔注意〕

わずかな進路変更をする場合は、ハンドルを振って行なってください。

(7) 駐車のしかた (6-6 図)

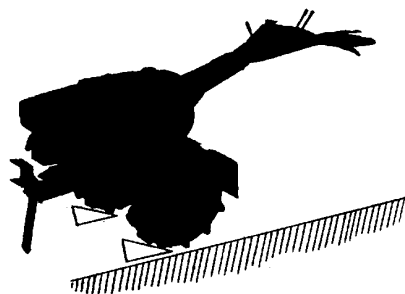
①主変速レバーを「低速」または「後速」位置にします。

②ブレーキレバーを握り「作動」位置にロックします。

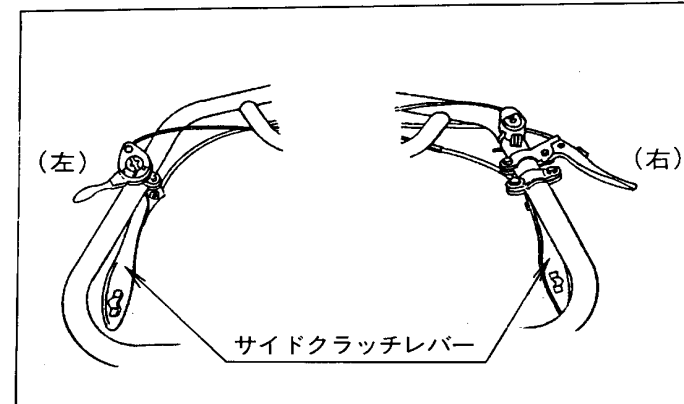
③スタンドロッドを押して、スタンドを立てます。

〔注意〕

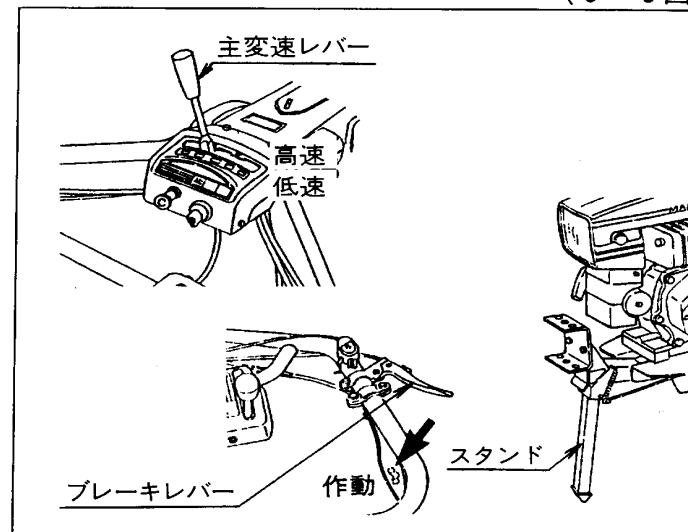
坂道などで駐車するときは、タイヤに歯止めをしてください。



(6-5 図)



(6-6 図)



## 7 バッテリーの点検・整備のしかた

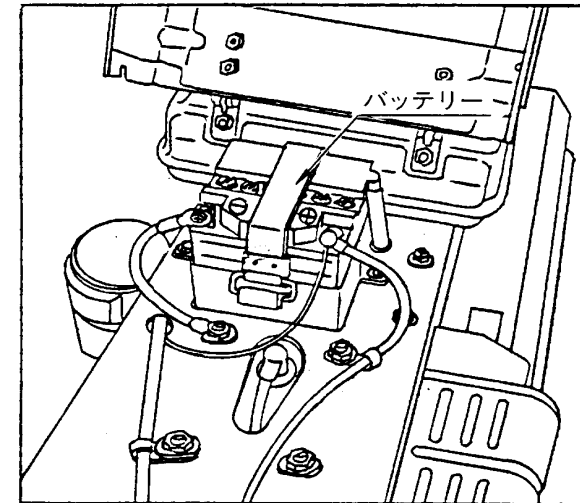
作業前には、バッテリー液がバッテリーケース液面レベルの上限と下限の間にあるか確認してください。

バッテリー液が少ない場合は、バッテリー補充液を補充してください。

※バッテリー補充液はガソリンスタンドで販売しています。

〔注意〕

- バッテリー液をバッテリーケース液面レベルの上限を超えるほど入れますと、使用中に液もれし本機を腐蝕させることがありますので、補給するときは液面レベル上限を超えないよう注意してください。
- バッテリー液は希硫酸ですので身体や服に付けないようにして下さい。もし身体や服に付いたときは、すぐに水洗いしてください。



寒冷地などの気温の低い地域、またエンジンの始動がしにくくなったり、ライトが暗くなってきましたら、補充電を行ないます。また、管理機を2週間以上運転しないと、バッテリーが放電してセル始動ができない場合があります。このときにも、補充電をしてください。

本機を長期間使用しないときは、最低1ヶ月に1回は補充電を行なってください。バッテリーが長持ちします。またバッテリー液量も月1回は点検して下さい。

### <補充電のしかた>

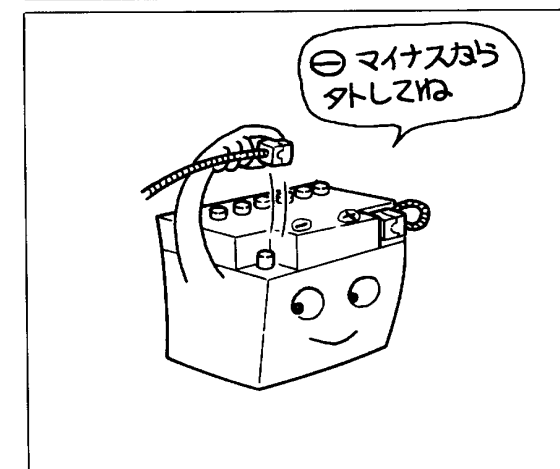
充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕に、バッテリーの⊖を充電器の⊖に接続して行ないますが、充電器の取扱書を充分お読みになってから行なってください。  
なお、急速充電はできるだけ避けて、普通充電を行なってください。

### [注意]

- バッテリーからコードを外すときは、必ず⊖側から外して下さい。(⊕側から外しますと、工具などが接触した時にショートする事があります。)
- 取付けるときは、必ず⊕側から取付けてください。
- バッテリーのターミナル部にはグリスを塗布しておいてください。
- バッテリー⊕ターミナルのゴムキャップは必ず取付けておいてください。
- 取付けの時、ターミナル接触部は布などで油等をふきとってください。

### <格納のしかた>

格納時は、機体を水平にし、バッテリー液がこぼれないようにしてください。  
長期格納時は、バッテリーの⊖側のコードを取外すか、バッテリーを本機から取外し、日光の当たらない、乾燥した場所に保管してください。



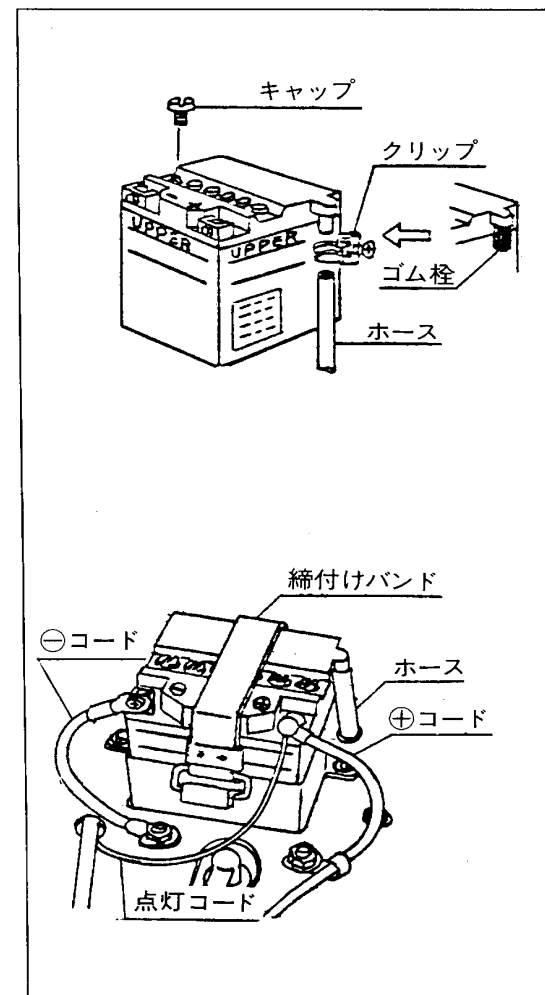


## 8 バッテリーの取扱い方

(8-1図)

バッテリーの注液や、取付け・取外しは、以下の要領で行なってください。(8-1図)

- ①バッテリーを取外してバッテリー液（希硫酸）を注入する前に必ずゴム栓を取り外して下さい。つぎにキャップを外し、UPPERレベルまで注液後キャップをしめます。
- ②ホースをつけ、クリップでとめます。
- ③⊕コード及び点灯コードを先に取付けゴムキャップをかぶせてから⊖コードを接続します。
- ④バッテリー保護のためのゴム板が所定の位置にあることを確認します。



## 9 ロータリーの取扱い方

HMD型にロータリー耕うん部を取り付けると大型耕うん機に負けない性能が発揮できます。ティラー型と駆動型の一台二役です。

### (1) ロータリーの取り付け方

本機のヒッチにロータリーを水平にして連結金具をはめこみ2本のキングピンで止め、左右2本の締付けレバーを回して固定します。(9-1図)

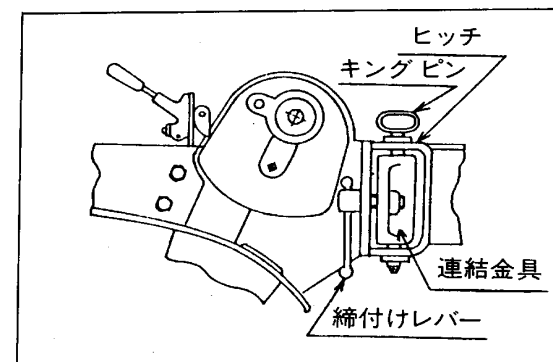
つぎに本機PTO軸とロータリー主軸へチェーンケースを挿入し、チェーンケースセットボルトでチェーンケース取付けステーに固定してください。(9-2図)

※入りにくい時は、ロータリチェンジレバーを「入」(低、高)位置にし、耕うん爪を軽く手で回せば楽に入ります。

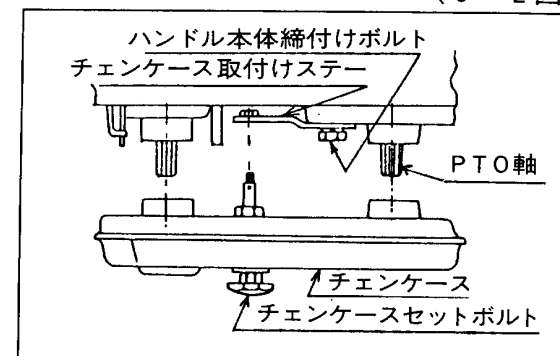
PTO軸部・ロータリー主軸部に、グリスまたはオイルを塗布してください。

注) ロータリーを外してPTO軸を使用しない時は、PTO軸にキャップを取付けてください。

(9-1図)



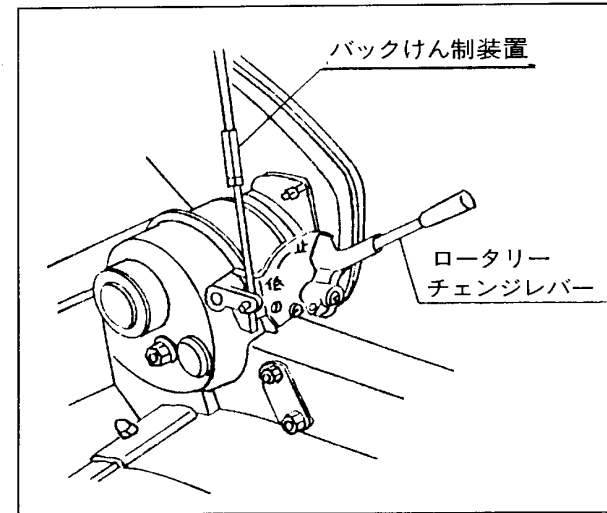
(9-2図)



## (2) 安全装置の取り付け

安全装置は後進するときにバックけん制装置が働きロータリーを止めないと主変速レバーが「後進」にはならない装置です。耕うん時にバックする場合ロータリーが回転していると非常に危険ですから、ロータリーカバーに添附してある取付けおよび調節方法に従って、必ず取付けて作業をしてください。(9-3図)

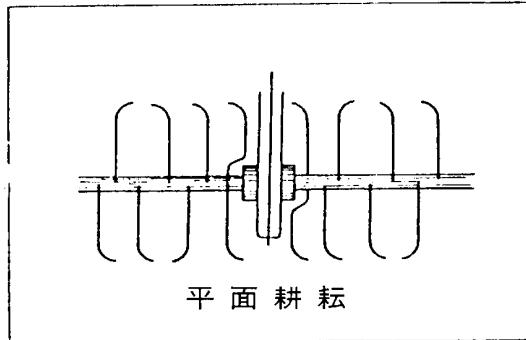
(9-3図)



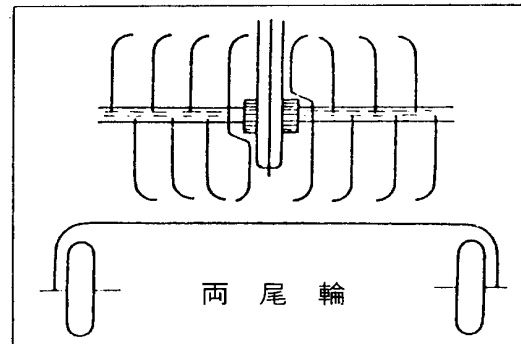
## (3) 耕うん爪の配列

- ①平面耕うんの場合は(9-4図)の様に取り付けます。
- ②両尾輪を使用して寄せ畦に耕うんの場合は、曲り爪を除き全部内向きに取り付けます。(9-5図)
- ③培土板を取付けて耕うんする場合は、なた爪で中心から全部外向けに取り付けます。(9-6図)

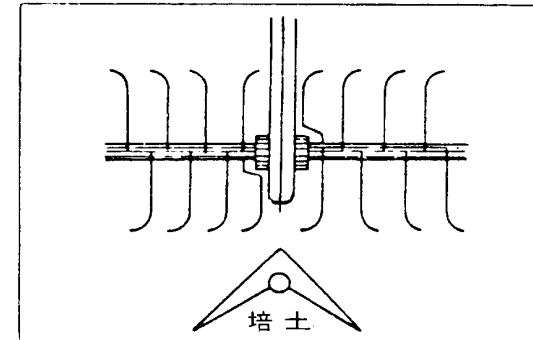
(9-4図)



(9-5図)



(9-6図)



#### (4) 残耕処理刃

□ーターケースの下部の残耕ができる場合はケースの下部に取付けて下さい。

(9-7図)

#### (5) 耕うん爪の取り付け方

普通一般の耕うんはなた爪を使用しますが、特に土質の堅いところでは棒爪を使用してください。

なた爪の取付け方

① なた爪 (MN-7) ……左右各6本

作業に応じて内向き、または外向きに付ける。

② 中爪 (MN-8) ……左右各1本

(9-8図) 赤印の反対側のホルダーに内向きに付ける。

③ 曲り爪 (MN-9) ……左右各1本

(9-8図) 赤印のホルダーに外向きに付ける。

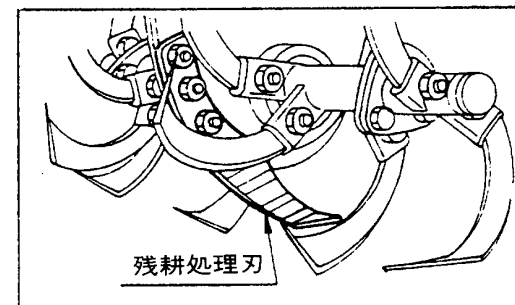
棒爪の取付けは曲り爪 (MH-8) 左右各1本を赤印のホルダーに付ける。その他の棒爪 (MH-7) を付ける。

中爪および曲り爪を取付ける場合は、ミッションケースと爪の間隙は調整座金で調節してください。(9-9図)

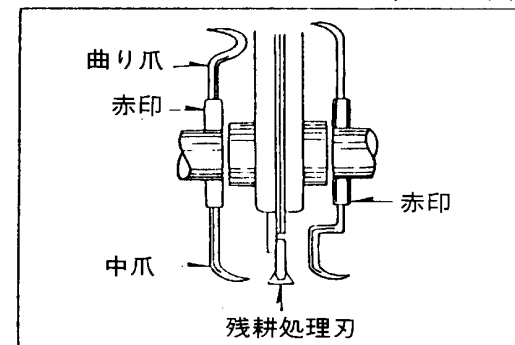
#### [注意]

耕うん爪取付けボルトはゆるみがちです。確実に締付けてください。ゆるんだままで作業しますとホルダーが痛みます。絶えず注意して締直してください。

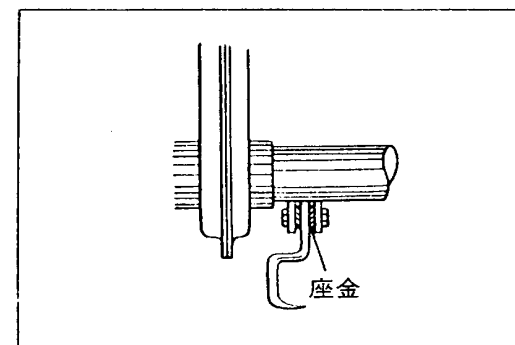
(9-7図)



(9-8図)



(9-9図)



## 10 作業後の手入と保存方法

長期間運転しない時や長期間保存する場合は次の手入を行なって下さい。

### 1 本機の清掃、洗浄、注油

泥、ゴミ、塵りなどは水洗し、水洗後はよく水分をふきとり各回転部、摺動部にたっぷり油をさして下さい。

### 2 オイル交換

オイル交換は作業が終って潤滑油の暖いうちに行ないますと大変楽ですし、又きれいに排油する事が出来ます。

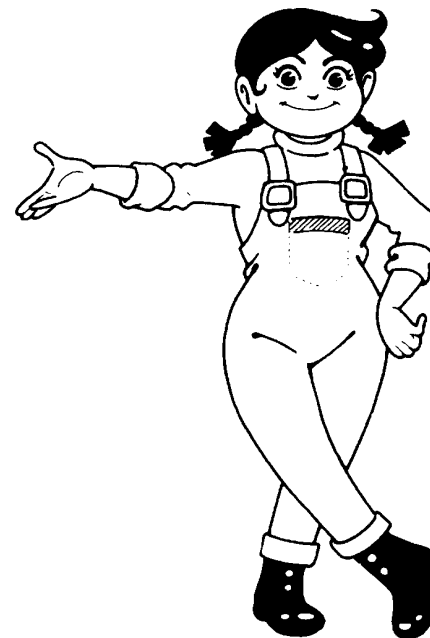
### 3 シリンダー内の錆付防止

点火プラグを外し、プラグの穴よりエンジンオイルを約10cc位入れ、リコイルスタータを2～3回引いてプラグを取り付けて下さい。圧縮のある所で止めて下さい。

### 4 燃料タンク、キャブレター、燃料コック内のガソリンは完全に抜き取って下さい。

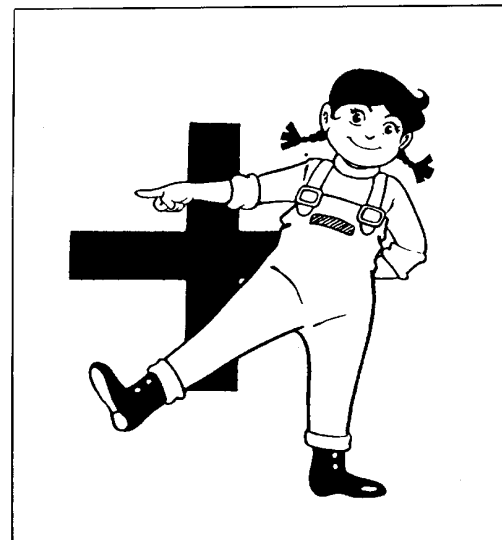
### 5 主クラッチレバーを「停止」にして下さい。

主クラッチレバーを「停止」にしてベルトをたるませておいて下さい。クラッチを「入」にしておきますとベルトに無理な力が働きベルトの形状が変形する事があります。



# 11 安全作業のための心得

- (1) 過労、病気、薬物の影響、その他の理由で、正常な運転操作ができないと思われる場合は機械作業に従事しないでください。
- (2) 適正な帽子や作業衣を使用し、衣服の一部や頭髪・手拭等が捲き込まれない様にしてください。
- (3) 作業前には常に正常な機能が発揮できるように各部の点検整備に心がけてください。また、作業後にも、次の作業のために点検整備を実施してください。
- (4) 機械の点検調整や付着した泥を除く時は、必ずエンジンを止めてから行なってください。
- (5) エンジンを始動させる場合は必ず主クラッチレバーを切ってから行なってください。
- (6) 燃料を給油する場合はエンジンを停止し、火気は厳禁のこと。特にくわえタバコでの給油は絶対にやめてください。
- (7) 作業中は作業関係者以外の者を機械に近寄らせないでください。特に子供には注意が必要です。
- (8) 作業中は機械の周囲に注意し安全を確認してください。
- (9) 屋内での点検整備では排気ガスが充満し易いので換気には十分注意して下さい。
- (10) エンジンのマフラーは非常に高温になりますので絶対に手など触れないでください。また機械におおいをかける場合は、マフラー等高温部が完全に冷却した後で行なってください。



# 配線図 セルスタータ仕様

